

地域力で貧困の連鎖を断ち切る

自主学習支援会 代表 河合良治

令和元年5月

■始まりは大田区の公募

平成24年大田区報4月1日号に、地域力応援基金、ジャンプアップ助成、テーマ「子どもの基礎学力の定着支援」という記事が掲載されました。

説明会では、

- ・ 目的：生活保護所帯を対象に学力支援などを行うことにより、子ども達がそれぞれの夢に向かい、将来、社会で活躍することをバックアップする。
- ・ 募集内容：生活保護所帯の
 - ① 中学三年生を対象とした高校進学を目指した学習支援（必須）
 - ② その他の学年などを対象とした基礎学力の獲得支援。
- ・ 関係する制度：生活保護所帯に対する学習環境整備支援費
 - 中学3年生……………15万円以内、(H29年、20万円以内に改定)
 - 中学1、2年生……5万円以内、

その他に、生活保護所帯以外の経済的に困窮している所帯の子どもに対する支援も可能。

その他の制度の紹介：東京都の受験生チャレンジ支援貸付事業⇒中学3年生、高校3年生を対象に20万円までの無利子貸し付け。

対象地区：大田区全域、地区を設定して実施も可能。

そして、「生徒は大田区生活福祉課からの紹介制とし、事業者は、守秘義務を徹底し、高校進学に向けた学力支援、やる気・自尊心の向上、自立支援の活動を持続できる実施体制を整える」という内容でした。

私たち、「自主学習支援会」は、NPO法人「おおた市民活動推進機構」の協力を得てこれに申請し、プレゼンテーションの末、採用されました。

申請書では、将来18特別出張所ごとに1教室ずつ設立するとし、まず、椏谷・羽田地区から始め、実施は平成25年4月からとしています。

■基礎となった、これまでの活動

これまでに、私はいくつかの活動を手掛けており、結果的にこれらの活動が助成受託の基礎となりました。その1つは、7年程前から始めた、外国にルーツを持つ子ども（小・中学生）の学習支援「はばたき」であり、2つ目は、同じく7年ほど前から始めた「ワンコイン寺子屋だんだん」、3つ目は、ワンコイン・個別指導教室「パスカル」でした。

公募を知った時、それらの活動から、どんな子どもでも都立全日制高校に進学可能であること、低額な授業料（1時間500円）で持続可能な運営が出来ること、また、個別指導により一人ひとりに合った学習方法を身に付けることが可能になることを、経験として解っていました。

■予想されたとおり様々な生徒が来ました

いわゆる通常の学習塾では、5段階評価での成績が悪くてもせいぜい〈3〉に〈2〉が散見するくらいの生徒が来ます。生活保護家庭の子どもはあまり来ませんし、来てもそれとは解りません。

しかし、自主学習支援会の事業においては、前提として生活保護家庭の子ども達が来ることとなります。なかには、成績が〈1〉や〈2〉ばかりの生徒、生活習慣の乱れた生徒、不登校経験者、非行グループに入っている子ども、普通学級に通う軽い障害のある子どもなども来るだろうことは想定していました。そして、思った通り、始めて2年目にはそのすべての生徒が来ました。

■教えることではなく、寄り添うことを大切に

遅れてくる子どもに、理由を聞いたり、叱責したりすることはしません。子どもによっては、叱られることが嫌で来れなくなってしまいう子がいます。

私たちは、遅れてきた子どもに「よく来たね、さあ、何をやろうか」と、まず、声を掛けることから始めます。来続けることから始められる子どももいるのです。ここが居場所になることが大切なのです。一人ひとりに目を向け、目の前にいるその子どもを理解しようと努めること、そのことが非常に大切です。

ベストキッズでは、原則として、学校の宿題や復習だけをする。そのことだけでも、子どもにとっては大変なことなのです。学校の授業がわかることを目標にする。どんなに成績の悪い生徒でも、都立高校に行きたいと本人が望み、近くに支援する大人がいれば、必ず全日制高校に進学出来るという確信が、これまで関わった生徒たちとの経験から、私たちにはあります。学習するのは生徒自身で、私たちはそれをサポートする。「学習は楽しい」をサポートするのです。

■2本の柱「学習支援と社会性の育成」

ベストキッズでは、学習支援の他に、「社会性」を身に付けることも目標としています。そのため、「世の中ライブ」と称して、夏休みと春休みに、美術館見学を実施しました。本物に触れて、自分の確かな目を育ててほしいからです。

今後は、通常授業の中で、「世の中ライブ」を実施することを計画しています。

■何で『ベストキッズ』なの？

経済的に恵まれない家庭で育った子ども達は、無意識の中にも様々な社会の問題性を感じているはずで、そのような子ども達こそ、この社会を変えていく原動力を内蔵しています。そんな子ども達に未来の社会を担ってほしいと願ってつけた教室名です。

■『ベストキッズ』7年間のあゆみ

1年目、糀谷教室（於糀谷小学校）、2年目、大森南教室（於大森第四小学校）、3年目、羽田教室（於羽田小学校）、池上教室（於池上小学校）、5年目、蒲田西教室（於道塚小学校）、馬込教室（於馬込小学校）7年目、六郷教室（東六郷小学校）をそれぞれ開設しました。

高校進学実績は、

平成25年度：4名中（都立全日制3名、定時制1名）
平成26年度：13名中（都立全日制11名、私立1名、他1名）
平成27年度：4名中（都立全日制4名）
平成28年度：15名中（都立全日制12名、私立3名）
平成29年度：15名中（都立全日制14名、就職1名）
平成30年度：7名中（都立全日制4名、私立3名）

1年目（平成25年度）の活動の結果、生徒の中に、学習習慣以前に生活習慣が乱れている子どももいることなどから、学習教室に通うのは、早ければ早いほど良いということが解り、大田区議会に働きかけた結果、平成27年度から、大田区では、生活保護家庭の子どもが学習教室に通うための支援金（次世代育成支援費）として、年額、中学3年生に

15万円、中学1、2年生に10万円、小学生（4年生以上）に10万円が支給されることになりました。平成30年現在では、中3に20万円、高校生にも、1・2年生に15万円、3年生に20万円支給されております。

平成27年度の在籍生の中で、中1の1学期末の9科目合計得点が5割弱だったのが、2年3学期末の同得点が8割以上となった生徒が現れました。また、普通学級に通っている、軽い知的障害のある生徒でも試験の結果が徐々に良くなっており、2年間で3.5倍の得点をとっていることが確かめられました。

平成28年度より、「ベストキッズ」出身の高校1年生の中から、希望者を「チューター」（高校の学習についてベストキッズのサポーターから支援を受けつつ、適宜中学生の世話をする）として無料で受け入れています。

■自主学習支援会の目的

会則には、学習支援により、「互いの違いを認め合い、共に生きていく」地域社会をつくることを目的とする、としています。

すこしでも教養を高め、互いの人格、考え方や個性を尊重し合いつつ、前向きに、よりよいコミュニティ作りに協働できる人に育って欲しいと願っています。

■社会、地域で、地域の子どもを育てる

貧困の連鎖を断ち切るためには、子どもたちが社会で独り立ちするまで継続してサポートすることが必要です。そして、子どもたちに愛情を持って継続的に関わるためには、地域の力が決め手となります。地域の心あるボランティアが学習サポーターを担い、日常的に自治会・町会、民生児童委員、保護司会などと連携して協力するネットワークが実現出来たらなんと素晴らしいことでしょう。

自主学習支援会には、教室を運営するための仕組とノウハウがあります。地域で学習サポーターとして働いていただける方がいらっしゃれば、いつでもその地域に教室が開設出来ます。

生徒1人1時間500円の授業料から、教室担当者には、時給1000円+管理費500円、学習サポーターには、時給1000円の謝礼を支払う仕組としています。

このように、地域の力で、日常的・継続的に、持続可能な教室を開設、運営できる用意を整えております。

地域の皆様に、貧困家庭の子ども達と共に、Help!と、呼びかけております。

趣旨に賛同いただける方々からの連絡を心からお待ちしております。